

第3回景観・デザイン研究発表会

Conference for Architecture of Infrastructure and Environment, JSCE

程：2007年12月7日[金]－9日[日]

会場：早稲田大学大久保キャンパス

第3回景観・デザイン研究発表会を開催しました

Report of the 3rd. Conference

2007年12月7日から9日まで、早稲田大学大久保キャンパスにて第3回景観・デザイン研究発表会を開催しました。その概要を報告いたします。

景観・デザイン研究編集小委員会委員長 佐々木葉

【12月7日】

[特別企画『土木のリセット！～いま、土木デザイナーに何ができるのか～』](#)

北海道から九州まで、学部1年生から博士課程の学生まで、全国から多様な学生所諸君が20名参加し、ワークショップを開催しました。また、聴衆としても様々な方がお見えになり、ワークショップの会場は大賑わいでした。

柴田久・福岡大学准教授の企画によるプログラムにそって、以下のような流れで進めました。

- 学生・アドバイザー・司会者全員自己紹介
- 問題提起として大成建設の関文夫さんから「土木の仕事とは」のプレゼンテーション
- グループ作業
 - グループディスカッション1：「土木という仕事の魅力的なところ、問題だと思ふところ」とは？
 - 発表：グループごとに議論の結果を発表。会場と質疑応答。
 - リセットボタン：佐々木が各班の発表に対して、リセットを考えてほしい意見群を選定。
 - グループディスカッション2：「リセットボタン」の貼られた内容に対し、「土木デザイナーとしてできること」を考え、提案する。
 - 発表：グループごとに提案成果を発表。会場と質疑応答
- 全体講評：聴衆として熱心に議論を聞いてくださった橋梁デザイナーの竹内きょうさんより感想をいただく。
- 続くシンポジウムにむけて、グループごとに再度議論

続くシンポジウムでは、コメンテーターとして濱田政則・早稲田大学教授（前土木学会会長）と吉川正嗣・国際航業HD取締役のお二人をお招きして、WSで議論した各グループの議論の結果を発表。コメンテーターからの熱いご意見・ご感想に始まり、学生からの無鉄砲な質問などが次々と応酬。会場からも多様な意見が寄せられました。シンポジウムには、WS参加者以外にも50名程の方が参加いただきました。その後の交流会でも活発な意見交換がありました。

以上の7日のWSとシンポジウムの経過を、その夜のうちにパネルに取りまとめて、8日朝から研究発表会会場に展示しました。そのパネルは[こちら](#)からご覧になれます。何分一晩で作成したこともあり、誤字脱字など散見されますが、そこはご容赦いただき、当日の議論の様子や意見の概要をご覧ください。

【12月8日・9日】

研究発表会は8日朝9時から開始。田村幸久景観・デザイン委員会委員長のあいさつの後、鈴木忠義東京工業大学名誉教授の基調講演をいただきました。題目は「人間を学ぶ土木工学を」です。鈴木先生にご準備いただいた当日のレジュメは[こちら](#)からご覧になれます。先生の長く豊富なお経験と人々の暮らす都市や地域に対しての深い愛情に裏打ちされた土木の、景観のなすべき仕事について、講演されました。

その後、2会場において合計52編の論文の[口頭発表](#)、ポスター発表会場では17件のポスター展示とコアタイムでの議論が行われました。また、8日の夕刻の懇親会は、150名ほどの参加者を得て、大変な盛会でした。土木工学科出身のプロミュージシャン高健太郎さん率いるバンドの生演奏でオープン、伊藤清忠学芸大学名誉教授の乾杯でスタートし、国土交通省竹内直文技術審議官から土木のこれからへの展望や景観分野に対する期待など、熱いお話をいただきました。

二日間の研究発表会への参加者は約270名でした。

最終日のクロージングセッションでは編集小委員会委員長の佐々木より、皆様にお礼を申し上げるとともに、来年度の開催校は熊本大学であること、また編集小委員会委員長を来年度より川崎雅史京都大学教授をお願いすることを報告申し上げ、閉会しました。

ご参加いただいた多くの方々、また企画運営にご協力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。





1

